

兵庫県における社会経済情勢の変化

人口減少・超高齢社会の進行 疎住化・人口の偏在化の進行

- 人口は2009年の560万人をピークに、**2050年には423万人まで減少（2015年比24%減）**し、**65歳以上人口は4割（2015年27%）**に達する。
- 現在、**人口の6割が県土面積の14%に当たる神戸・阪神地域に集住**している。今後は、神戸・阪神地域も含め、**すべての地域で人口が減少**する。

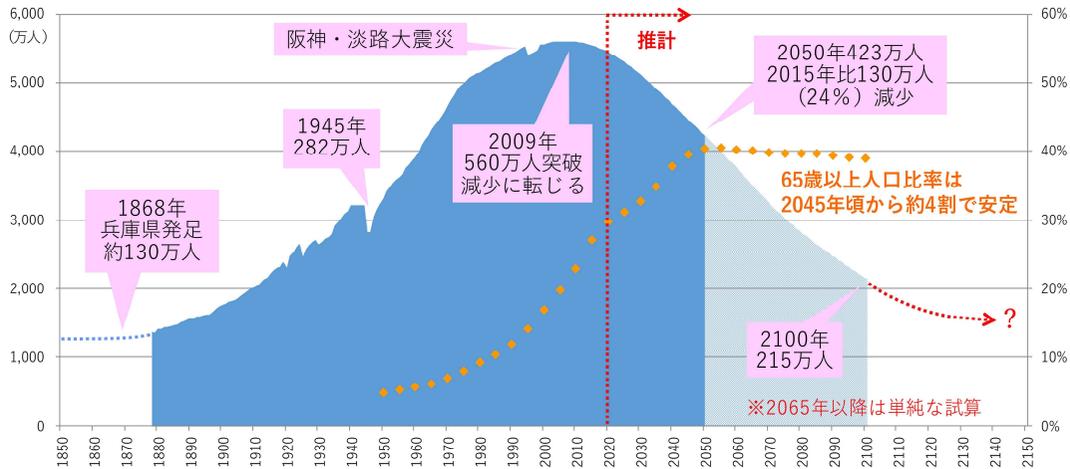


図1 総人口及び65歳以上人口比率の推移（2020年以降は推計値）

出典 国勢調査報告及び兵庫県将来推計人口（2015～65年）

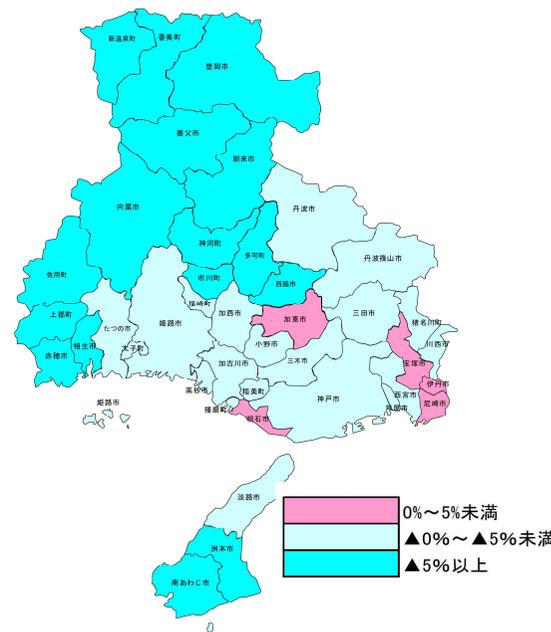


図2 市区町別人口増減率（H27→R2）

出典：令和2年 国勢調査結果速報から見た 兵庫県の人口

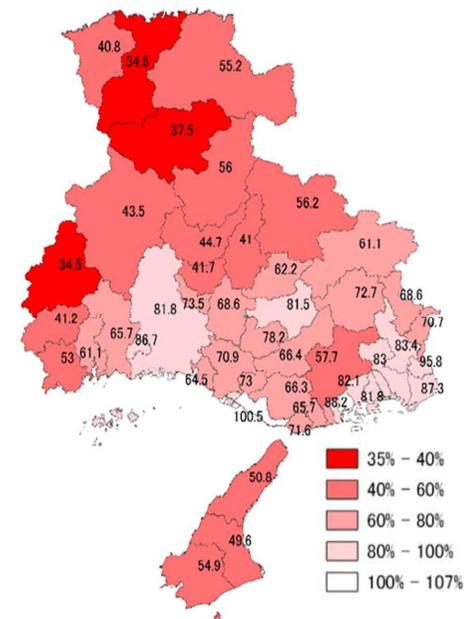


図3 2015年を100とした場合の2050年の人口指数

出典 兵庫県将来推計人口（2015～65年）

- **東京圏への一極集中が拡大**しているが、コロナ禍で変化の兆しが見られる。
- 兵庫県では、**2011年以降、転出超過**が続いている。

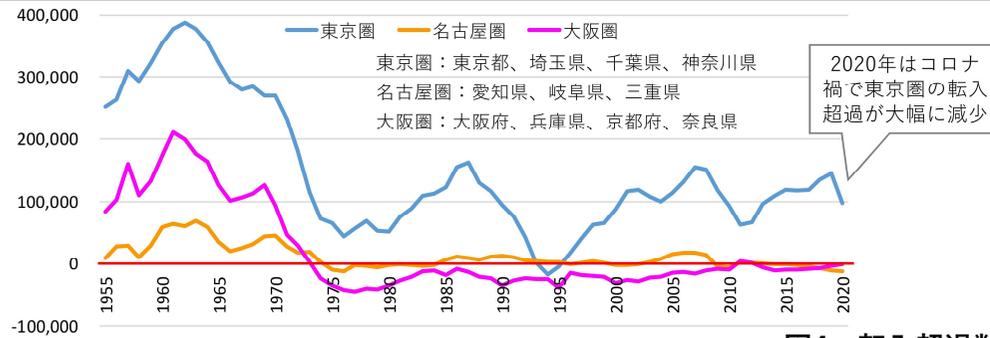
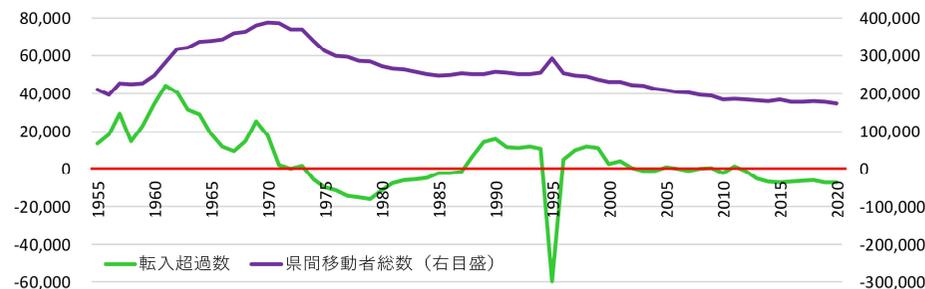


図4 転入超過数の推移(単位：人)



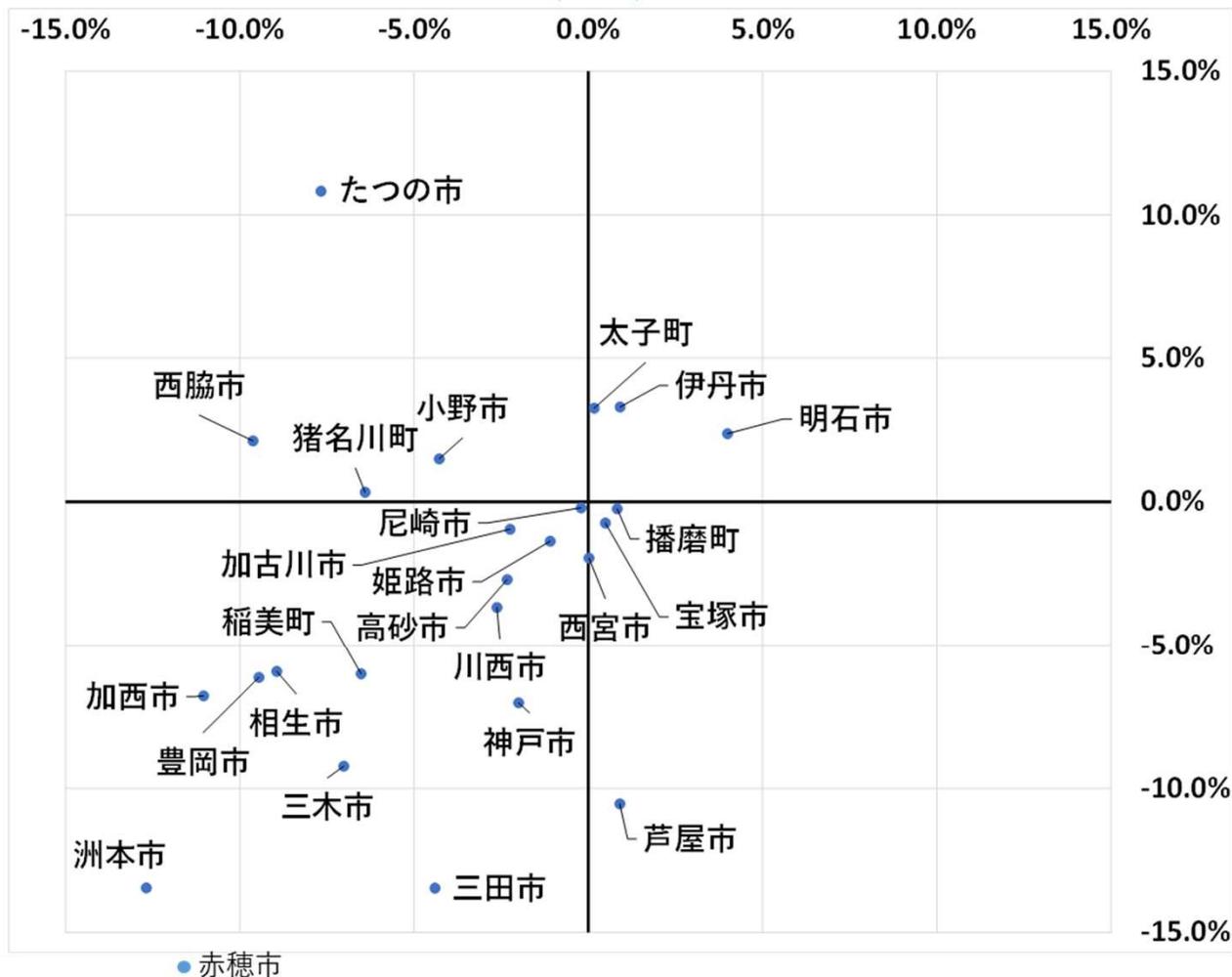
出典 総務省「住民基本台帳人口移動報告」(日本人のみ)

中心市街地の人口変化

- 明石市など3市町では都市全体・中心部とも増加、たつの市など4市町では中心部への集中傾向、加西市や洲本市など14市町では都市全体・中心部とも減少傾向にある

都市全体と中心部における人口増減状況(H22→R2)

市町全体の人口密度増減率



○4市町
市町全体の人口↓
中心部の人口↑

○3市町
市町全体の人口↑
中心部の人口↑

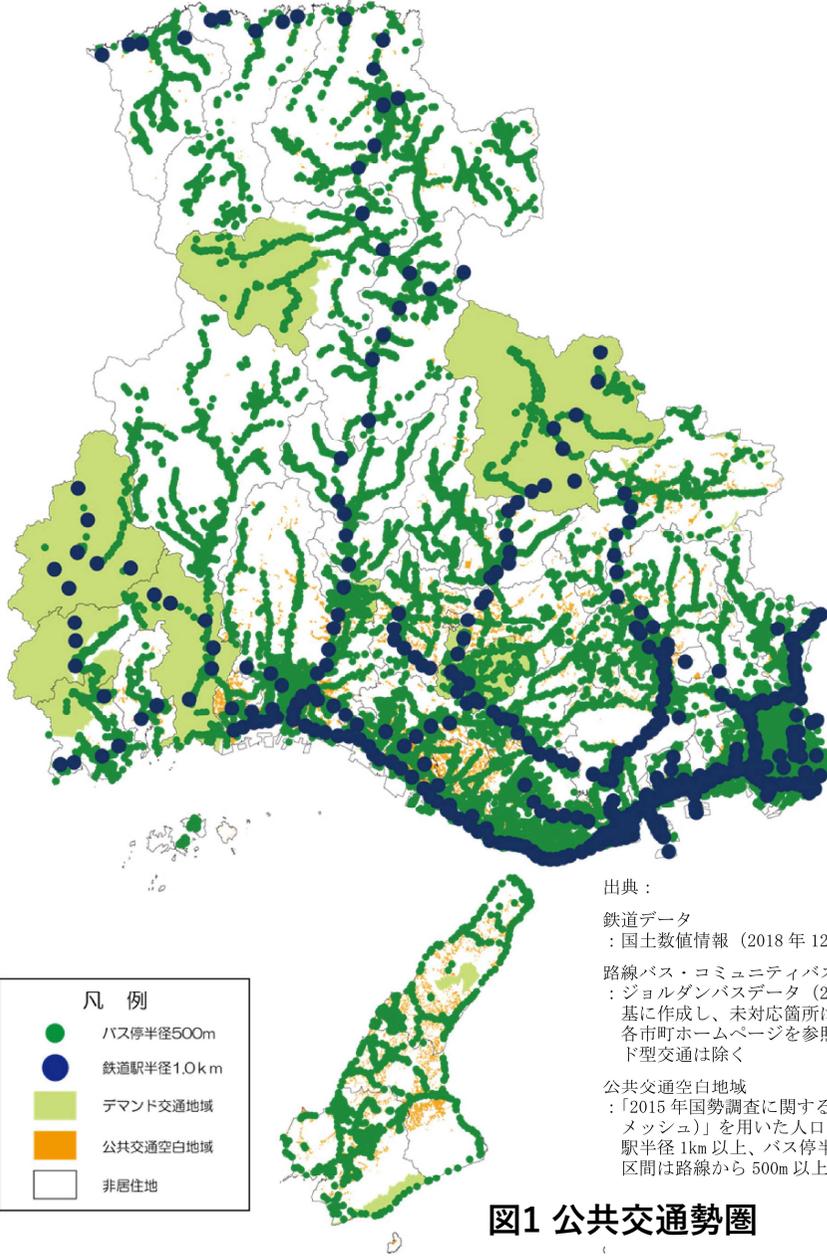
↑人口集中地区の
人口密度増減率

○14市町
市町全体の人口↓
中心部の人口↓

○4市町
市町全体の人口↑
中心部の人口↓

交通弱者の増加

- **公共交通空白地域は、可住地面積の23.4%、地域内の人口は3.1%** 淡路地域や播磨地域の内陸部等に公共交通空白地域が多い。
- **但馬地域、丹波地域、淡路地域における代表交通手段の70%以上が自動車**

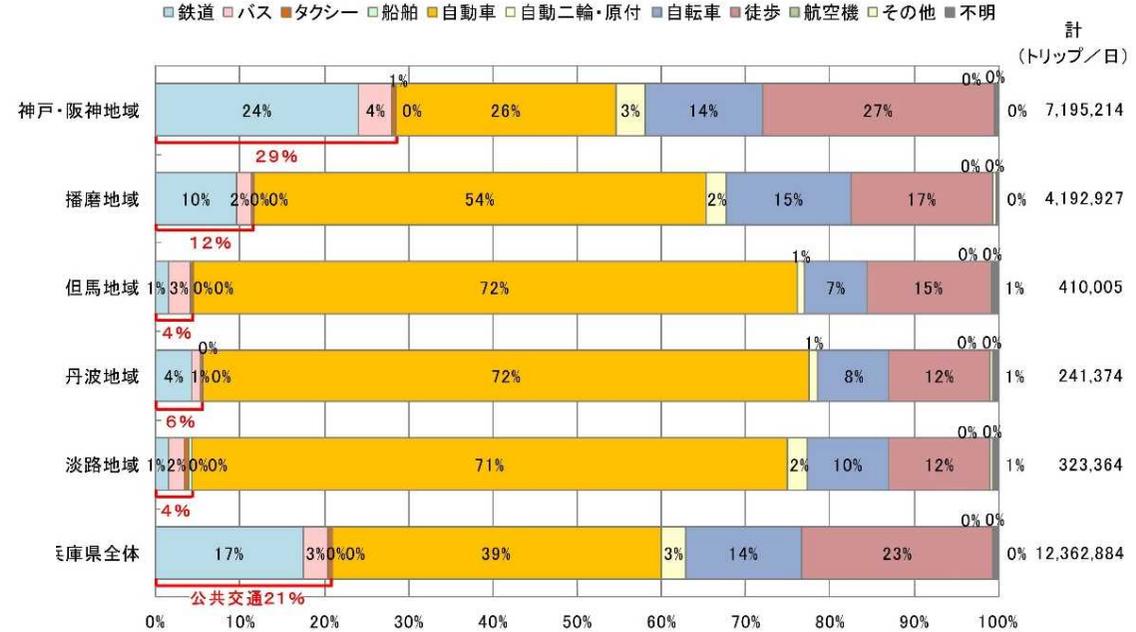


出典：
 鉄道データ
 : 国土数値情報 (2018年12月1日時点)
 路線バス・コミュニティバス・デマンド型交通
 : ジョルダンバスデータ (2019年11月1日時点) を
 基に作成し、未対応箇所は神姫バスホームページ、
 各市町ホームページを参照運行区域が不明なデマ
 ンド型交通は除く
 公共交通空白地域
 : 「2015年国勢調査に関する地域メッシュ統計 (100m
 メッシュ)」を用いた人口1人以上の地域の内、鉄道
 駅半径1km以上、バス停半径500m以上、フリー乗降
 区間は路線から500m以上の地域を示して作成

図1 公共交通勢圏

公共交通空白地域の割合

	兵庫県全体	公共交通空白地域 (バス停500m・ 鉄道駅1km圏外)	公共交通空白 地域の割合
可住地面積 (km ²)	2,701.75	632.65	23.4%
人口 (人)	5,531,350	169,638	3.1%

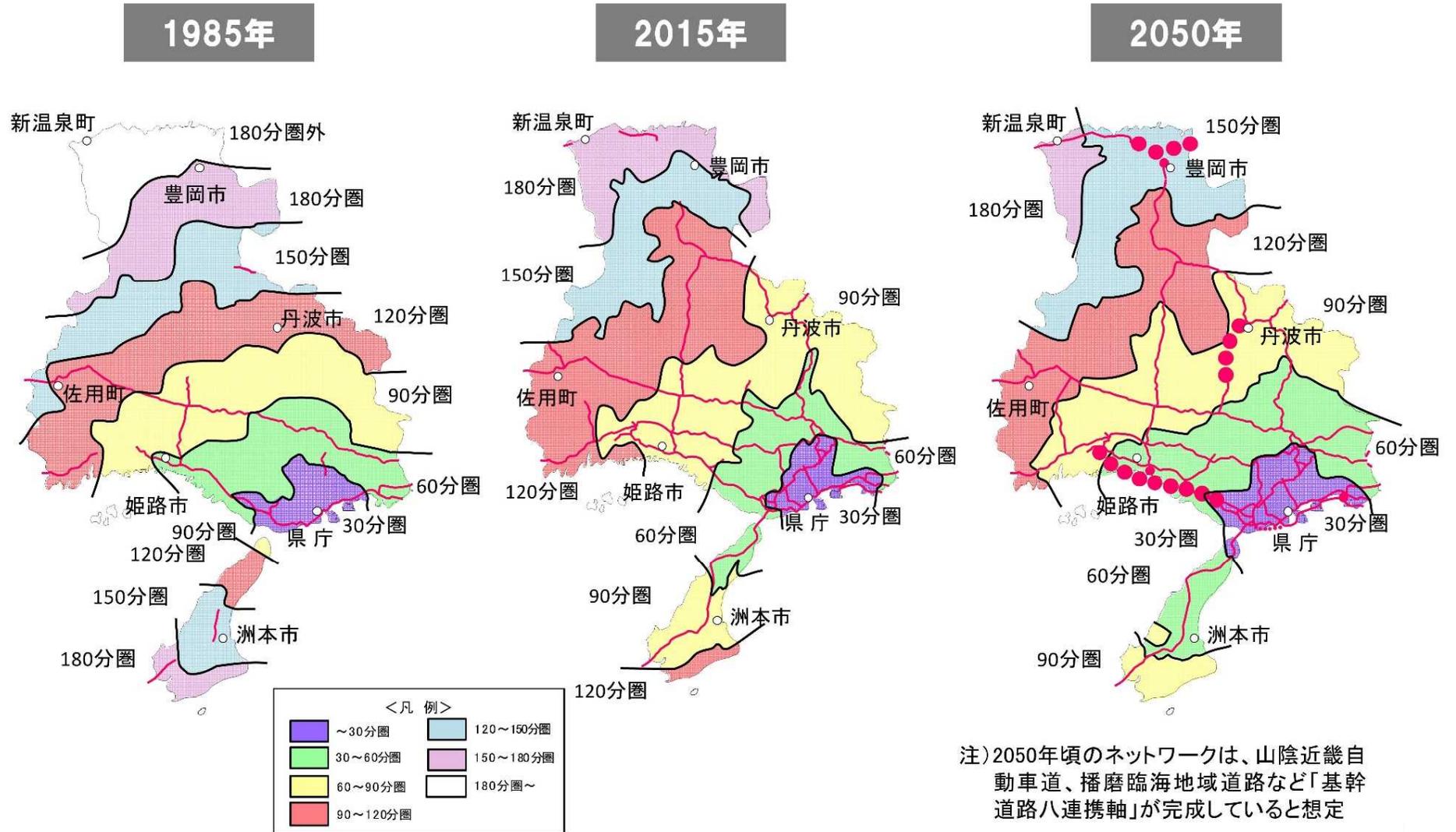


※生成量による集計結果
 ※小数点以下を四捨五入しているため、内訳の割合の計と公共交通の割合が一致しない場合がある
 出典：近畿圏パーソントリップ調査 (第5回 2010年)

図2 地域別代表交通手段分担率

縮まる移動時間

- 1985年に150分圏域であった洲本市などが明石海峡大橋の開通により90分圏域に。また新温泉町は2015年には180分圏域に短縮
山陰近畿自動車道、播磨臨海地域道路など「基幹道路八連携軸」が完成することにより更に、移動時間の短縮が見込まれる。



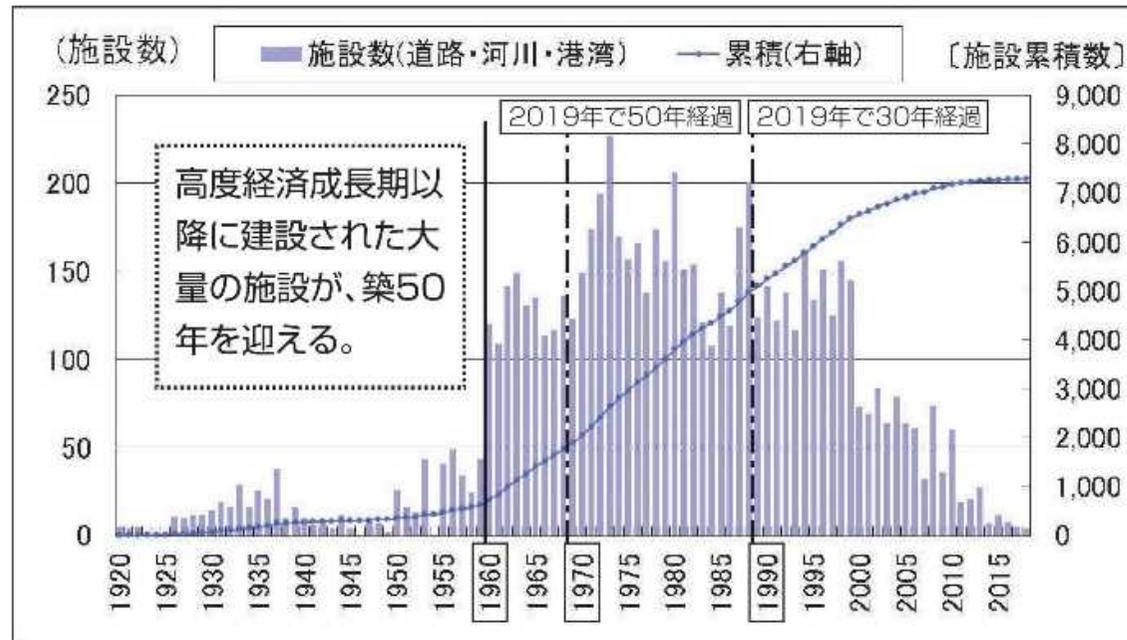
都市基盤施設の一斉老朽化 施設の維持管理や更新

- 県が管理するインフラの多くは、高度経済成長期以降に建設されており、今後、**大量の施設が耐用年数を経過**
- **ひょうごインフラ・メンテナンス10 箇年計画（R1～R10年度）**に基づき、計画的・効率的な対策を進めていく必要がある。

老朽化施設の割合（土木インフラ）

区分	R1	R11	R21
橋梁（50年経過）	41%	62%	79%
排水機場（30年経過）	39%	69%	82%
水門・堰（30年経過）	53%	78%	91%

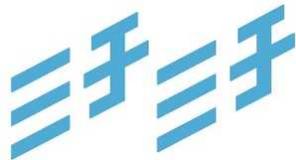
主要施設の年度別建設数



居心地が良く歩きたくなるまちづくり

- 「ウォーカブル推進都市」に、全国325団体（県内：神戸市他8市町）が賛同。「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりに取り組む区域をまちづくり計画に位置付けた市区町村は、53市区町村（県内：神戸市及び姫路市）（R3.5末現在）
- Smart Wellness City首長研究会(H21結成)（県内：豊岡市、川西市、加西市及び西脇市が加盟）により、自律的に「歩く」を基本とする「**健幸**」なまち（Smart Wellness City）を構築することにより、**高齢化・人口減少が進んでも持続可能な先進要望型社会を創る**取組が推進されている。

姫路市大手前通り 活用チャレンジ「ミチミチ」



「歩いて楽しい、大好きなお城への道」～「ひと」が集い「まち」とつながる大手前通り～をコンセプトに、JR姫路駅から姫路城への緑・光・にぎわいの連続性を確保し、ひとが通行するための歩道から、ひとが滞留し楽しむための魅力あるストリートを目指した取組を進めています。エリア価値を向上させるため、公民連携の取組により利活用を促進しています。道路空間と沿道建物が一体となった利用シーンの創出を見据え、2019年から社会実験として活用チャレンジ「ミチミチ」を実施しています。

第1弾 2019年



将来的な大手前通りの利活用を具体的に想定し、大手前通り周辺で働く方、来街者、そして観光客の方を姫路の魅力的な「食」や「クラフト」でおもてなしをする活用チャレンジを行いました。

実施内容

飲食・物販の出店やマーケット等

設置物

ベンチ、テーブル、櫓、茶室、パーティバイク等

第2弾 2020年



2019年の活用チャレンジを経て、大手前通りには滞留している人が少ないということがわかりました。そのため、2020年は市民の皆さんや大手前通り周辺の方々に、大手前通りが憩いやくつろぎの場として利用されることを目指し、休憩施設等を設けることで、段階的に人が居る状況をつくり、大手前通りの空間としての質を高めました。

実施内容

滞留行為誘発のための滞留施設やくつろぎスペースの設置

設置物

ベンチ、テーブル、櫓等

空き家の増加

- 県内の**空き家数は約36万戸で全住宅の13.4%。その他住宅（活用見込みのない空き家）が増加傾向。**
- **空き家率は都市部より地方部が高い傾向**にあり、淡路では全住宅の4分の1近くが空き家

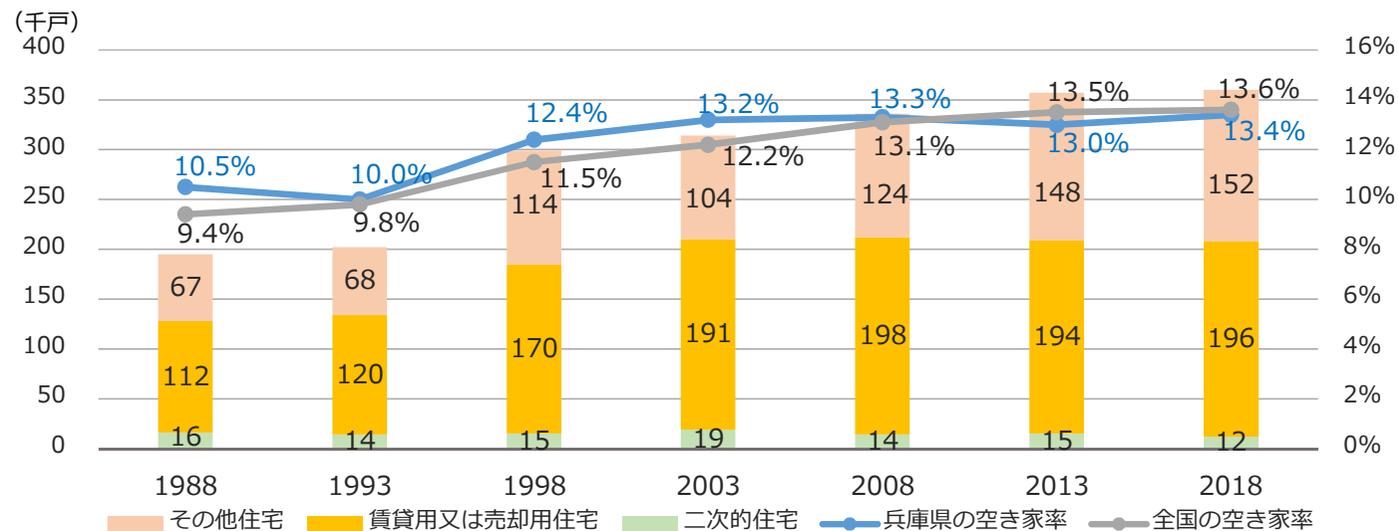


図1 空き家数及び空き家率の推移

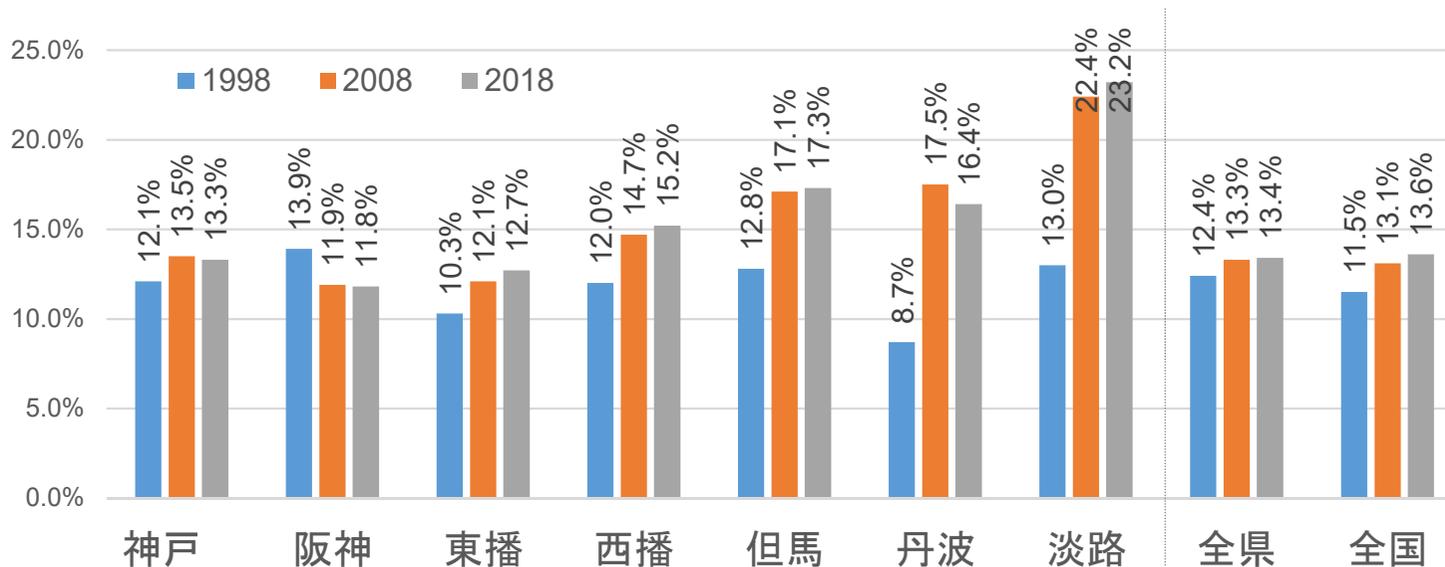


図2 地域別空き家率の推移